

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部・4年

氏名: 永松 采花

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅣ
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修先の香港大学歯学部では、技師補綴科、う蝕科、歯周病科、抜歯のクリニックの見学、矯正科、口唇口蓋裂、口腔外科学のsession(講義)への参加、PBLへの参加、技師補綴科の試験の見学を行いました。まず、クリニックへの参加を経験させて頂き、日本の歯学部と香港の歯学部との違いを感じました。大きな違いとしては、香港の歯学部では、3年生以降実習として、実際に患者さんの治療を行います。日本では、5年生まで患者さんの治療を行うことはありませんし、たとえCBTに合格しても抜歯などの大きな治療を行うことはないですが、香港大学では3年生から行っていました。また、患者さんへの対応の仕方の違いや、考え方の違いを感じました。また、講義やPBLへ参加させて頂き、改めて、日本で学んだことの重要性を確認しました。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>現地での生活を通して、まず、香港大学の先生方をはじめ、学生や患者さんなど多くの人に助けていただいたことへの感謝を伝えたいです。英語もままならなく、海外へ言ったこともほとんどない私たちは、些細なことでも分からないことがたくさんあり、また、コミュニケーションも上手くとれないこともありましたが、しかし、現地の方々はすぐに私が困っていると話しかけてくれて、私の英語を分かろうとしたり、知ってる日本語を使って話してくれたりして助けてくれました。当たり前のことですが、私も困っている人に対して手を差し伸べたいと改めて感じました。また、食文化の違いなどを見られて興味深かったです。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>研修前と研修後で成長したことは多くありますが、最も大きく成長したと考えられる点は、英語や知らないことに対する対応についてです。具体的には、香港大学の学生は、目の前の患者さんに対して、同じ学生という立場にも関わらず自信を持って対応していました。また、私たちが参加したチームは、積極的に話しかけてくれて、ランチやカフェに誘ってくれたり香港にいる間中気にかけてくれました。私は、研修へ行っていなければ、自分が逆に招く側の学生になった時にそれだけ気かけられなかったと思います。また、自分のやるべきことに対して自信を持って出来ることをする姿は、同じ学生なのにも関わらず尊敬でき、私も日本で自分がやるべきことをしっかりとしたいと感じました。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)	
<p>地域社会の発展に寄与するために、まずは、今後、鹿児島大学歯学部の学生として、学ぶべきことを今まで以上に真摯に丁寧に学びたいです。それが、歯学部生として、地域社会に支えられて生活している私たちが最もやるべき事だと思います。また、今後、自分の将来を考える時に至った際に、もちろん県外へ学びに行くことも重要ですが、鹿児島で生まれ育った学生として、鹿児島県へ貢献出来るように、離島の医療や僻地の医療への関心を忘れないようにしたいです。多くの香港大学の学生が、鹿児島へ興味を持ってくれたことで、より、鹿児島県の魅力を見つめ直すきっかけとなりました。良い経験となりました。ありがとうございます。</p>	

# 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部 4年

氏名: 梶山結衣

授業科目名	海外歯科研修プログラムVI
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修先では、義歯補綴科や抜歯、歯周治療学の臨床現場を見学した。自分たちの学年がちょうど既習していた科目であったため、日本と香港での治療スタイルの違いを見つけることが出来た。また、香港大学の生徒が治療していたため、それらの違いについて質問することができたため、違いをより深く理解することができた。また、矯正歯科や口唇口蓋裂の手術についての講義を受け、自分たちの大学で受けた講義の知識とは違った角度からみた講義であり、教え方も異なっていたので非常に興味深かった。事前に英語の専門用語を勉強していたので、より理解に繋がった。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>現地の人とはとてもフレンドリーで優しく、困ったときはいつでも助けてくれた。日本語はあまり通じないところが多いが、英語はどの世代も通じていたので英語の勉強は必要だと感じた。しかし、拙い英語でも現地の人には聞き取ろうとしてくれて優しくかった。香港の人は日本旅行に訪れる人が多いなど、日本に対して好意的に思っている人が多いので、難なく現地で過ごすことができた。また、香港大学は3年生のときから臨床現場に出て、患者を治療していることを聞き、日本とは全く異なるシステムだったため驚いた。自分と同じ学年の生徒が患者さんの治療をしていることはとても刺激になった。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>研修前と研修後では、英語能力が成長したと感じる。研修前は英語が上手に話せなかったらどうしようと不安に思っていた。しかし、現地の生徒と話す機会が増えるにつれ、上手に話すというよりも相手にどのように言ったら伝わるかという考えになり、携帯の翻訳アプリをなるべく使わないように英語で話すように努めた。その結果、相手も自分が言おうとしていることを真剣に聞き取ろうとしてくれて、コミュニケーションが取りやすくなったと思う。英語を話すことを不安に思わず、相手主体となって考えられるようになったことは自分にとっての成長だと感じる。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p> <p>地域社会の発展に貢献するため、まずは鹿児島の歯科治療の実態を理解する必要がある。今、大学の授業で、歯科については学んでいるものの、自分の地域の歯科について問われたときにしっかりと答えられる自信がなく、知識も不十分だと感じる。そのため、まずは、鹿児島の歯科事情がどのような状態にあるのかを、日頃から意識して問題点を吟味し、課題解決に取り組んでいきたい。自分の今の現状を踏まえた上で、目標としては、地域社会の発展に貢献できるよう目の前の大学の勉強に目を向け、歯科について日々勉強し、自己研鑽に務めたいと思う。</p>	